



組織の変化を、社員と共に起こす 「ベクトルを合わせる」

これからの時代を生き抜くために必要な、イノベーションの創出。専門の知見を得てベストな手法を選び、明るい兆しが見えてきたと思っても、その先の成果が約束されている訳ではなく、結局“今まで”に戻ってしまうケースもあるようです。イノベーションに挑戦する企業の明暗を分ける要因はどこにあるのか。OKB総研が伴走役を務める企業の取り組みに、そのひとつの答えを見出しました。

CONTENTS

02 特集記事

「外」からのエネルギーによって
変化のはじまりをつかみ取った共栄鋼材の、“その後”。

グループインタビュー

共栄鋼材株式会社 未来構想空間プロジェクトメンバー

06 インタビュー

株式会社飛驒の森でクマは踊る 岩岡孝太郎氏

08 INFORMATION

【SERVICE】共立ビジネスクラブ サービスリニューアルのお知らせ

【SEMINAR】OKBビジネスセミナーのご案内《2022年12月～2023年2月》

【SERVICE】福利厚生サービス「シネマチケット優待サービス」終了のお知らせ

【SERVICE】メール会員募集中！

「外」からのエネルギーによって 変化のはじまりをつかみ取った共栄鋼材の、“その後”。

2022年1月発刊のKBC TIMES134号で、経営者が社員と共に未来を作りはじめた企業を紹介した。ご登場いただいた共栄鋼材株式会社の松本英之社長は最後に、「ふさわしい未来を社員と一緒に見つけていきたい」と会社のこれからについて語っていた。そのカギを握るのが、掲載当時は未完成であったコミュニケーションスペース「未来構想空間」である。あれから、会社のあるべき姿の実現に向けて経営者と社員は何に取り組んでいるのか、新しい変化をこし続けられているのか。未来構想空間の、今は、「共栄鋼材のその後」について、お話を伺った。

(聞き手：OKB 総研 戦略事業部長 長瀬一也)

KBC TIMES134号の概略

極薄材から厚物まで加工可能な高い技術力が強みの、共栄鋼材。自動車産業のバリューチェーンで確固たる地位を築いている反面、CASE（コネクテッド・自動運転・シェアリング・電動化）時代の到来による需要減少の危機に直面していた。

「どう変わればいいのか見えてこない」と苦悩する松本社長に対し、株式会社ロフトワーク^{※1}とOKB 総研はオリジナル研修プログラム「未来構想スクール^{※2}」を提案。「組織の“レジリエンス”を高める」を目的としたスクールには、松本社長と12名の社員が参加した。

「共栄鋼材のこれから」を描くうえで必要な新しい視点・視座を手に入れたスクール参加メンバーは、「未来構想」を共通言語に、一人ひとりが所属部門で小さな波を起こし始める。その中で松本社長は、共栄鋼材の未来を見据え、新しいコミュニケーションスペース「未来構想空間」を作ろうと動き始めていた。



記事はコチラ▶



会社概要

共栄鋼材株式会社

設立：1954年12月1日
所在地：営業本部・可児工場
岐阜県可児市姫ヶ丘4-2
TEL.0574-60-0810
本社・江南工場
愛知県江南市小折本町栄234
TEL.0587-54-3222
社員数：79名（2022年10月現在）
事業内容：鋼材販売およびスケール除去付スリッター・レベラー加工

Webサイト：kyoueikouzai.co.jp/



OKB 総研 長瀬一也（以下、長瀬）：前回の「未来構想スクール^{※2}」に関するグループインタビューから、およそ1年が経過しました。その間、共栄鋼材さんでは大きな動きがありましたね。

識したのは多様性です。スクール参加メンバー数名に加え、日頃から部門のリーダーを務めている人、ムードメーカー役の人、縁の下の力持ち的な存在の人などに声をかけました。

共栄鋼材 松本英之社長（以下、松本社長）：はい。2021年11月から7か月ほどかけて社員主体で作り上げたのが、この「未来構想空間」です。未来構想スクールを経て生まれた変化の芽やチームの輪をもっと大きくしていきたいという思いから取り組みました。



長瀬：丸テーブルを中心に、いろいろな工夫や仕掛けが盛り込まれているのがわかります。見ていだけで楽しく、好奇心や想像力が刺激されるスペースですね。

松本社長：結果的に部門も職種もさまざま、20代から60代まで幅広い年齢層の社員がプロジェクトメンバーになってくれました。

長瀬：中井さんと佐野さんは声がかかった時、どう思われましたか。

松本社長：「未来構想スクールに続いて、また社長が変なこと言ってるよ」とか（笑）。

総務部 秋田将史氏（以下、秋田氏）：「せっかくだから未来構想空間づくり自体を社内プロジェクトにしよう！」となり、松本社長と私のほかに、プロジェクトメンバーを15名選定しました。意

総務部 中井仁美氏（以下、中井氏）：未来構想スクールという研修が実施されたのは知っていたのですが、正直、自分には縁がないと考えていました。でも、そうじゃなかった展開に少し驚きつつ（笑）、話を聞いて「楽しそう！ぜひ参加したい」と思いました。

営業部 佐野靖典氏（以下、佐野氏）：私も声をかけてもらえてうれしかったです。会社で新しい何かが始まって、それに関われるんだと思ったらワクワクしました。

長瀬：ヒダクマさんによる未来構想空間プロジェクトは、どのように進んでいきましたか？

秋田氏：まずは、「未来構想空間」をどんな場所にするかを話し合うワークショップをしました。17名が3チームに分かれ、ヒダクマさんのスタッフにもご参加いただいて、「あったらいいな、こんな〇〇」について意見を出し合いました。

中井氏：プロジェクトメンバー以外の社員の声も、事前のアンケートで吸い上げていました。「休憩



時間においしいコーヒーが飲みたい」とか「ゆっくり昼寝できる場所がほしい」とか「共通の趣味を持つ人たちが集まりたい」とか。いろんな意見がありましたよね。

佐野氏：集まった意見をホワイトボードにまとめて、チーム単位で投票したり、ディスカッションをしたりしながら、未来構想空間の理想の姿、使い方、ひいてはありたいチームの関係性について言語化していきました。

秋田氏：導き出されたのは、「信頼のある関係」「尊重し合う関係」「未来を語り合える関係」「互いを高め合う関係」の4つでした。じゃあ、それらが実現しているのはどんなシーンなのか。次のワークショップでは、ブロック玩具の「レゴ[®]」を使っ

て、チームごとにイメージを表現しました。

佐野氏：「未来を語り合える関係」だったら、「窓から山を望む広場のような場所にテーブルや椅子を置いて。時にはバーカウンターを囲みながらみんなでコミュニケーションができるといいね」とか、「休日に山登りをしよう」とか。レゴ[®]を組み合わせながらアイデアを3次元化していく過程はとても楽しかったです。

秋田氏：未来構想空間のイメージがプロジェクトメンバーの間で少しずつ固まってきたタイミングで、建築家の柿木佑介さん（株式会社パーシモンヒルズ・アーキテツ 一級建築士事務所）が加わり、具体的な設計に入っていました。柿木さんからご提案いただいた未来構想空間のコンセプトは「“ここで〇〇をしたい”と各々が別々の価値を見出せる場所」。設計図には、ワークショップでプロジェクトメンバーが導き出したキーワードも踏まえた「大きな丸テーブル」「ロングカウンター」「掲示・展示壁」「プレゼンスペース」「ロングベンチ」などが描かれていて、感動しました。

松本社長：設計の方向性が決まっからは、家具計画に取り組みました。広葉樹を扱うヒダクマさんとコラボレーションして、鉄の可能性や新しい活用方法を考えました。これは、今回のプロジェクトを通してぜひチャレンジしたいことのひとつでした。

秋田氏：製品を結束するためのベ어링フープ（帯鉄）や、現状は廃棄しているコイルの端材、グループ会社のワッシャーメーカーで排出される鉄鋼スクラップ。見慣れたそれらも、「マテリアル」として捉えてみたら、全く異なるモノに見えてくる。さらに、メッキ加工を施したり、木材と組み合わせたりすると、新たな価値やプロダクトが生まれる。そんなモノづくりのおもしろさを味わいながら、視点を変える大切さを学びました。

※1 株式会社ロフトワーク
オープンコラボレーションを通じてWeb、コンテンツ、コミュニケーション、空間などをデザインするクリエイティブ・カンパニー。2020年9月より、名古屋市中区にある久屋大通公園にて、オープンイノベーションのプラットフォーム機能を有したモノづくりカフェ「FabCafe Nagoya（ファブカフェ ナゴヤ）」を、OKB 総研と協働運営中。

グループインタビューに応じてくださった未来構想空間プロジェクトメンバー。写真左から、営業部 佐野靖典氏、総務部 中井仁美氏、松本英之社長、総務部 秋田将史氏

※2 未来構想スクール
共栄鋼材、ロフトワーク、OKB 総研の3社による膝を突き合わせた意見交換に基づいて組み上げた、オリジナル研修プログラム。思考プロセスを身に付けつつ、外部に関係人口を増やす必要性を体感できるコンテンツにすることで、社員のレジリエンス向上を目指した。講師には、第一線で活躍する異分野のプロフェッショナルにご協力いただいた。

※3 ヒダクマ
ロフトワークの関連会社で、正称は「株式会社飛驒の森でクマは踊る」。岐阜県飛驒市古川町の「FabCafe Hida（ファブカフェ ヒダ）」を拠点に、森から木工の現場まで地域全体をフィールドにしたプログラムを提供している。未来構想スクールでは、2日間の飛驒合宿に協力。これをきっかけに、未来構想空間プロジェクトの伴走役も務めた。



未来構想空間の入口。社員が気軽に利用できるよう、ドアではなく、暖簾を思わせるカーテンを採用した。



パンチングメタルやベ어링フープ、コイルの端材が天井や壁面の装飾、家具に生まれ変わった。



未来構想空間の利用イメージ。ドリンクのラインナップにも社員の意見を取り入れている。

松本社長：ヒダクマさんのスタッフが穴の空いた鉄鋼スクラップを見て、「これはスクラップじゃなくパンチングメタルですよ」とおっしゃった時のことは忘れられません。同じモノを見ても、組む人が違えば見方や表現する言葉も違ってくる。そこから何かが始まったり、思いがけない物語が生まれたりするのが、異分野のプロフェッショナルの視点・視座を得る、いわゆる「外部とつながる」の醍醐味だと思います。

長瀬：今回、大きな円を描く天井装飾などにパンチングメタルが使われているんですね。カウンターの表面には、光によって表情を変えるベ어링フープが貼られています。コイルの端材はベンチやテーブルに生まれ変わりました。

秋田氏：現場の社員にも協力してもらって、材料を工場からこの場所へ運び込みました。およそ150mのパンチングメタルで天井に描いた円は、人と人の関わりで輪が広がっていくイメージを表現しています。

中井氏：施工段階に入ると、空間が毎日少しずつ変化していくから、社員が代わるがわる覗きに行っ

たりしてね。みんなが未来構想空間の完成を心待ちにしていました。

長瀬：未来構想空間は誕生後、どのように活用されていますか？

秋田氏：無料でソフトドリンクやコーヒーを飲めるのもあって、休憩時間や終業後にカフェ感覚で足を運ぶ社員が多いですね。おしゃべりを楽しむ人、読書や昼寝をする人、それぞれの過ごし方を楽しんでいるようです。あとは商談、オンラインミーティング、気軽なプレストのスペースとして利用されています。

佐野氏：普段はあまり接点のない部署の人と、ここで顔を合わせる機会が増えました。自然に会話が弾むので、今まで知らなかった相手の個性や魅力を知ることができています。

秋田氏：今年の8月には、社員の家族を対象にしたイベントをここで開催しました。

長瀬：どのようなイベントですか？

秋田氏：パンチングメタルなどを使った工作教室です。自由な発想で目を輝かせながら作品づくりに取り組むお子さんたちの様子が印象的でした。お父さん、お母さんの職場を直に見て、働くことの大切さを知る機会にもなったのでは、と思います。

長瀬：今後、未来構想空間をどんな場所にしていきたいですか？

松本社長：社員やその家族、お取引先、地域の方、さまざまな方が交流して、何か良いことや「共栄鋼材らしさ」が生まれる。そんな場所であつたらいいと思います。画期的な内容でなくてもいいんです。たとえば、未来構想空間プロジェクトの



ストーリーを知った学生さんが共感して入社してくれる、仕事で悩んでいた社員がここで仲間に励まされて「もう少しがんばってみよう」と前向きになれる、来社したお客さまがこの空間を見て「共栄鋼材、なんか変わってきたな」「鉄のことはやっぱり共栄鋼材に相談したい」と感じてくださる。そうした出来事の積み重ねがエンジンになって、共栄鋼材が「鉄」という軸で社会に貢献しながら持続的に成長していくのが理想です。

長瀬：このプロジェクトを通して、皆さんの中に生まれた変化についてお聞かせください。

佐野氏：かつての私はどちらかというと受け身で、自分から相手に働きかけるような主体性がありませんでした。営業として製造担当の人たちに相談しないといけない場面でも、自分の中だけで勝手に解決してしまったりして。でも、未来構想空間プロジェクトに参加して、自分の考えやアイデアを言語化して相手に伝え、コミュニケーションを図るのは、楽しく有意義なことであると気づきました。今はできるだけ自分からいろいろな人に話しかけて、つねに自分の視野や価値観を広げようと心がけています。

秋田氏：ある時、佐野さんが製造部のラジオ体操の時間に工場へ行って、現場の人たちと一緒に笑顔で体操しているのを見ました。自分自身をそういう風に変化させられた佐野さんがカッコいいなと思いました。

佐野氏：自分の中で起きたポジティブな変化をこれからも継続させていきたいと思っています。

秋田氏：私はもともと慎重な性格で、何事も動き

出す前に、その行動の選択肢と結果をあれこれ考えるタイプです。今も本質的には変わらないのですが、未来構想スクール、未来構想空間プロジェクトの両方に参加して、いい意味で「深く考えすぎない」「走りながら考える」のも時には大切だと実感しました。

松本社長：秋田さんは頭の回転がいいから、女性とのデートだったら、誘う前からどういふシチュエーションで聞いたらいいかな、どういふ服装で行けばいいかな、待ち合わせはどこにしようかなとか、あれこれ考えちゃうんですね。

秋田氏：そして、いくら綿密に考えても思い通りにはいかなくて、ちょっとフリーズしちゃったりするという（笑）。でも、仲間たちと知恵を出し合い、一緒に楽しみながら手を動かしたら、いつの間にか想像もしなかった場所に来たり、今まで見たことのない景色が見られたりするんだなと。そういうすばらしい経験をさせていただきました。

中井氏：私も、自分の中で起きた一番の変化はマインドだと思っています。何かをやる時、失敗するのを恐れてついブレーキをかけてしまいがちだったのが、「どうしたらできるか」「この方法がダメなら、あの方法を試してみよう」と考えられるようになりました。そういうプラス思考を総務部の社員にも伝播できる存在になっていきたいと考えています。そして「総務部のあつたらいいな、〇〇したい」が日本一叶えられる会社になりたいです！

松本社長：今回の取り組みは、共栄鋼材の今後を考えると、新事業を生み出す必要があると感じてスタートさせました。でも、未来構想スクール

と未来構想空間プロジェクトを通して、本当に必要なのは何かを生み出せる人材・チームを育てていくことだと学び、それをひとつの成果として形にできたのをうれしく思っています。未来とは、こういう積み重ねの先に結果として現れるモノなのかもしれません。変化というのは目に見えるモノと、目に見えないモノの2種類あって、目に見えない変化も含めれば、共栄鋼材はすでに以前と違う姿になっています。私にできるのは、これからも社員と共に、まずやってみる。絶えず、より良い方法を見つめながら前に進んでいくこと。「未来をもっと良くしたい」という意志を持ち、行動して迎える5年後、10年後の景色はきっと明るいと思っています。

長瀬：本日は貴重な話をお聞かせいただき、ありがとうございました。



2022年8月に行われた夏休み工作教室の様子と作品たち。今後、地域との交流イベントも積極的に開催していく予定とのこと。



未来構想空間 プロジェクトの プロセス

WORKSHOP 1 2021年11月 アイディエーション

「あったらいいな、こんな〇〇」を各自で付箋に書き、ホワイトボードに貼付。そしてみんなが考えた「あったらいいな」が実現したら、何が起るかを話し合った。



ワークショップ1の様子。プロジェクトメンバーは互いをニックネームで呼ぶというルールを作った。

WORKSHOP 2 2021年12月 レゴ®表現ワーク

レゴ®表現ワーク

ワークショップ1のアイディエーションを経て導き出された「信頼のある関係」「尊重し合う関係」「未来を語り合える関係」「互いを高め合う関係」をレゴ®で場所として表現。チームのあり方や関わり方について考えた。

自分の好きな場所、そこに居る人たちのイメージを、レゴ®を使って3次元化していった。



WORKSHOP 3 2022年2月 空間活動構想

空間活動構想

設計を担当する建築家の柿木佑介氏が加わり、未来構想空間の設計プランを囲みながら基本構想を共有。みんなの「こう過ごしたい」を具体的に反映した。また、鉄と広葉樹を組み合わせたオリジナル家具についても検証を行った。



設計プランの詳細について議論する建築家の柿木佑介氏(中央)とプロジェクトメンバー。

WORKSHOP 4 2022年3月 空間設計ワーク

空間設計ワーク

丸テーブルに置く椅子の種類や高さなど、細部を検証。また、コイルの端材や穴の空いた鋼材スクラップ(パンチングメタル)などを工場から運び込み、現場の施工をサポート。



プロセス後半になると、プロジェクトメンバー以外の社員も自発的に参加するようになった。



WORKSHOP 5 2022年4月 ドキュメンテーション

ドキュメンテーション

未来構想空間プロジェクトの活動を振り返り、記録として資料を作成。

2022年6月

未来構想空間 竣工



共栄鋼材で扱う鉄×飛騨産の間伐材という組み合わせから、斬新な家具や照明器具が多数誕生。

インタビュー

株式会社飛騨の森でクマは踊る(通称ヒダクマ) 代表取締役社長/CEO 岩岡孝太郎氏

未来構想空間は社員にとってのサードプレイス。 自由な使われ方から「共栄鋼材らしさ」が生まれる。



共栄鋼材さんとの出会いは、2021年夏に行われた未来構想スクールの飛騨合宿でした。自動車メーカーのサプライヤーとして日々、加工精度を追求しながらモノづくりに取り組んでいる企業だけに、お会いするまでは少し堅いイメージを抱いていたのですが、実際は個性豊かな方々ばかりでチームワークもいい。そういう共栄鋼材さんの魅力を発揮して、未来構想スクールでの学びを広く社内に展開していけるコミュニケーションスペースづくりを提案したところ、偶然にも松本社長も同じ考えを抱いていらっしゃり、ヒダクマが引き続き伴走役を担わせていただきました。ですから、未来構想空間プロジェクトは未来構想スクールの延長線上であり、社員さんたちが主役になってゼロから形にしているというのが特徴です。

一般的に職場のコミュニケーションスペースづくりは、総務などの限られた担当者や建築業

者の間でプロジェクトを進めていくケースが多いのではないのでしょうか。もちろん、その手法によって素敵な空間が生まれ、働く人のモチベーションが上がるのは望ましいことですが、「与えられた環境」というのはすぐに当たり前になって、不満が募っていきがちです。一方、みんなで作って作り上げた空間は、完成までのプロセスを共有しているおかげで愛着が湧き、使いながら「もっと良くしよう」と進化させていく取り組みが自然に生まれます。少し回り道になるかもしれないけれど、楽しく悩みながら空間づくりをしていくことが共栄鋼材さんにとって有効なのではないかと考えました。

竣工までに5回行われたワークショップでは、2つを重視しました。ひとつは、プロジェクトメンバーの皆さんの要望をしっかり汲み取ること。もうひとつは、プロジェクトメンバー同士が自由に発言しつつ、互いを尊重し合える雰囲気

づくり、言い換えればチームビルディングです。そのために、「あったらいいな、こんな〇〇」のアイデアを付箋に書いてホワイトボードに貼ったり、レゴ®を使って理想のイメージを形として表現してもらったりしました。取り組みの中で、「彼女のトークには説得力があるね」とか「彼のレゴ® 発想力はすごい」とか、今まで知らなかった社員の一面をたくさん発見でき、新鮮な体験になったようです。

そうして少しずつイメージを言語化、3次元化した未来構想空間を具体的に設計に落とし込んでくださったのが、建築家の柿木佑介さんです。柿木さんが提唱している「オーバーレイ・マルチプル・バリエーズ」の建築観(建築家の価値観のみで建築をまとめ上げるのではなく、多様な要素・可能性を重ね合わせて場所を作り、新しい価値を生むという考え方)が今回のプロジェクトにフィットすると思い、アサインさせ

ていただきました。柿木さんが提案された設計プランは、共栄鋼材さんの工場を見学したり、鋼材に関するプロジェクトメンバーのプレゼンテーションを聞いたりして湧き出たインスピレーションも盛り込まれていて、とてもすばしかったです。

未来構想空間プロジェクトを通して、共栄鋼材さんの前には未来に向かう確かな道筋がひらけたと思います。その大きなターニングポイントに関わらせていただけたのは、私たちヒダクマのスタッフにとってもうれしい経験になりました。そして共栄鋼材さんと一緒に仕事をしたという気持ちが強くなり、今は鉄と広葉樹を使った家具の共同開発に取り組んでいます。そうした関わりを重ねつつ、継続的に共栄鋼材さんの変化や進化を見守っていけたら、これほどうれしいことはありません。

おわりに

「共栄鋼材は、日本一“あったらいいな”がある会社です。」インタビュー終盤で中井さんがこう発言された時、取材陣は一瞬言葉を失いました。「うちの会社は日本一」という本心からの思いを、聞き手にどうしたら伝えられるか。そんな気持ちが込められた発言に、心を射抜かれたのです。同時に、松本社長の「ふさわしい未来を社員と一緒に見つけていきたい」という信念は社員の皆さまに確実に浸透していている、そう思わずにはいられませんでした。

他人を変えるのは非常に難しいことです。「その代わりに自分は変えられる」とは言っても、変える目的を改めて掘り下げてみて、本当に“自分”に行き着くケースはいくつあるのでしょうか。変化を望んでいる経営者さまに、あえて問います。自分と言いつつ、実は他人(=社員)を変えようとしていませんか? また、こうあるべきと未来を決めつけたうえで行動をしていませんか?

「会社は社長の器以上に大きくなれない」と言われています。しかし今回のインタビューを通して、より正確な表現は「会社は社員全員の器の合計まで大きくなれる」ではないかと感じました。社長の役割には、「方向性を示す」のほかに「社員の可能性を信じ、引き出す」があります。松本社長は「社員の器の総和=会社そのもの」とお考えで、今ではそれによって得られる可能性の広がりを、社員の皆さまと共有しています。また、異分野のプロフェッショナルの視点・視座にふれ、変化の種を次々と芽吹かせたいエネルギーを得ました。まるで掛け算のように大きな変化の波を起こす「外部とのつながり」をこれからも続けていくと、総和はどこまで大きくなり、どんな姿を描いていくのでしょうか。そして、社員の皆さまの可能性はどれだけ広がっていくのでしょうか。「社員全員の器を大きくして、会社にふさわしい未来をつくる」取り組みが、今まさに共栄鋼材で展開されています。

重要なお知らせ 共立ビジネスクラブ サービスリニューアルのお知らせ SERVICE

デジタル時代への対応、そして会員さまの満足度向上のために、共立ビジネスクラブのサービスが新しくなります！2023年2月からは、経営に役立つ情報のお届けと人材育成へのフォローをより充実させていきます。引き続き、共立ビジネスクラブへのご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

リニューアルの2大ポイント (2022年11月1日現在)

ポイント1 情報量と閲覧スタイルをより充実！

『日経トップリーダー』と『Monthly』を毎月お届け



『日経トップリーダー』 『Monthly』

『日経ビジネス電子版』が読み放題



『日経ビジネス電子版』

※「ブック・セレクト・サービス」で『日経トップリーダー』以外をご選択の会員さまには、後日特典付き購読のご案内をいたします。
※「ブック・セレクト・サービス」で『日経ビジネス』を選択され、すでに8,000円/年をお支払いいただいている会員さまには、送付済冊数で精算し、ご返金いたします。

ポイント2 人材育成をさらにサポート！

経営者・管理職向けのセミナー・研修動画 e-ラーニングサービスをスタート



『Knowledge of Design』

※『トップの情報CD』のコンテンツも同サービスに収録されるため、CDでのお届けは廃止いたします。

詳細につきましては、後日チラシ等にてお知らせいたします。

OKB ビジネスセミナーのご案内 《 2022年12月 ▶ 2023年2月 》

SEMINAR

①12/21 (水) ②2023年1/11 (水) 各回13:30~16:30

【全2回コース】自信をもって明日から実践！ “いまさら聞けない”ビジネスマナー研修

講師名 株式会社ク雷斯・プランナーズ
人材開発コンサルタント 伊藤 典子 氏
対象 若手社員・新入社員、中堅・実務担当者、管理職
会場 オンライン (Zoom) 定員 30名
受講料 共立ビジネスクラブ会員：11,000円
一般：26,400円

2023年1/18 (水) 10:00~17:00

新任経理担当者のための 経理の仕事入門

講師名 御堂筋税理士法人
高岡 亜子 氏
対象 若手社員・新入社員、中堅・実務担当者
会場 オンライン (Zoom) 定員 30名
受講料 共立ビジネスクラブ会員：11,000円
一般：26,400円

2023年2/7 (火) 13:00~16:30

【セミナー&個別相談】デジタルマーケティング・営業DX (BtoB企業向け) 実例から学ぶ！1年でWeb集客を 500%成長させた秘訣

※個別相談の日程は、セミナー終了後に個別調整
講師名 株式会社アクシス
代表取締役社長 臼井 教司 氏
対象 中堅・実務担当者、管理職、経営者・幹部
会場 【セミナー】OKB Harmony Plaza 名駅 (名古屋市中村区名駅)
【個別相談】株式会社アクシス岐阜本社 (岐阜市金宝町)
もしくは オンライン (Zoom)
定員 20名
受講料 共立ビジネスクラブ会員：11,000円
一般：26,400円

2023年2/15 (水) 13:30~17:00

若手が集まる・辞めないホワイト企業に変身を！ ガラッと賃金一新セミナー2023

講師名 株式会社北見式賃金研究所
所長 北見 昌朗 氏
対象 経営者・幹部
会場 オンライン (Zoom) 定員 30名
受講料 共立ビジネスクラブ会員：5,500円
一般：13,200円



お申込方法

- WEB申込 OKB総研Webサイト内のお申し込みフォームをご利用ください。
- FAX申込 OKB総研Webサイト内より「お申込書」を印刷していただき、必要事項をご記入のうえ、送信してください。

セミナー詳細・お申し込み
(okb-kri.jp/seminar/business/)



重要なお知らせ 「シネマチケット優待サービス」終了のお知らせ SERVICE

共立ビジネスクラブ会員さまを対象とした福利厚生サービス「シネマチケット優待サービス」は、2023年1月31日をもって終了させていただきます。

お取扱チケット (2022年11月1日現在)

[有効期限] 2023年3月31日

映画館	券種	会員価格
コロナシネマワールド	大人	1,300円
	小人 (3歳~高校生)	900円

サービス詳細・お申し込み
(okb-kri.jp/kbc/welfare/)



登録
無料

メール会員 募集中

OKB総研は、メール会員を随時募集しています。イベントやセミナーの開催情報、独自の視点でまとめた調査結果、マッチング情報 (希望者限定) などをいち早くお届けいたします。ぜひご登録ください！

メール配信サービスのお申し込み
(okb-kri.jp/contact/mailcontact/)

